

# 1 学びのセーフティネットの構築

## (1) プログラム開発の背景

国民生活基礎調査において、日本の子どもの貧困率が平成24年に過去最悪の16.3%になったことを受け、国は、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることのないよう、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を平成25年に成立させた。

本道においても、平成27年に「北海道子どもの貧困対策推進計画」を策定し、児童養護施設等に入所している子どもたちの基礎的な生活能力やコミュニケーション能力、自己肯定感などを育み、社会的に自立することができるよう支援していくこととしている。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、児童養護施設などの入所者が安全・安心な環境の中で体験活動を楽しむプログラムを開発するものである。

## (2) 道及び道教委の主な関連施策

### ・ 北海道総合教育大綱 基本方針Ⅱ子どもの学びと成長の環境を整える

生まれ育った地域や環境に左右されず質の高い教育を受けることができるよう、就学に係る経済的支援の取組を進めるほか、様々な教育的ニーズに対し、多様な学習機会を提供するなど、教育環境の向上を図ります。

### ・ 北海道教育推進計画

子どもの将来がその生まれ育った環境等によって左右されることなく、健やかに育成されるよう、就学に係る経済的支援の推進や相談機能の充実、多様な学習機会の提供や子どもの居場所づくりなど、教育環境の向上のための取組の充実を図ります。また、教育支援はもとより、生活支援、保護者に対する就労支援、経済的支援の施策について、知事部局と連携し、各種支援の情報提供に取り組みます。

### ・ 北海道子どもの貧困対策推進計画「多様な体験活動の機会の提供」

道立青少年体験活動支援施設において、不登校や障がいなど困難を抱える児童生徒の体験活動を支援します。また、児童養護施設等に入所する子どもの社会性や豊かな人間性の醸成等につながる多様な体験活動の機会を設けることに努めます。

## (3) 各施設実施プログラムの概要

<b>砂川</b>	<b>チャレンジキャンプ</b>
令和3年10月4日（月）（日帰り）	魚釣り体験、まき割り&火おこし
<b>厚岸</b>	<b>道東チャレンジキャンプ2021（冬）</b>
令和4年2月9日（水）（日帰り）	スノーシュー体験、焼き板クラフト

# チャレンジキャンプ

## 1 事業のねらい

周囲とのよりよい人間関係について考えると同時に、自然体験活動とおおして、達成感を味わわせ、自信を高めることで、失敗を恐れず前向きに物事を捉えられるようにする。

## 2 事業の概要

- 期日 R3.10.4(月)
- 対象 心に悩みを持つ小学校5年生～中学生
- 人数 4名
- 場所 ネイパル砂川
- 協力 石狩川振興財団遊水地学習館

## 3 プログラム

	9:50	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00
4日(月)	集合場所 晴天時：砂川遊水地管理棟 雨天時：ネイパル砂川 集合時刻 9:50～	受付	出会の集い	魚釣り体験 ～えさ取りが上手な魚との知恵比べ～ 雨天時：ニュースポーツ ペーパータワー	移動・昼食	まき割り& 火おこしチャレンジ ～芋を焼こう。焼きマシュマロも絶品だよ～	振り返り 解散 15:00

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- コミュニケーション力を高める体験活動
  - ・コミュニケーショントレーニングを取り入れることで、自分の気持ちや考えを他者に伝える方法を学べるようにした。
  - ・交流を通して課題を解決する一連のプロセスを体験できるように、学生ボランティアの人数を増やし、より多くの人とコミュニケーションを図れるようにした。
- 達成感を味わわせ、自信を高めるための体験活動
  - ・ファイヤースターター火おこしを取り入れ、サポート体制を充実させ途中で投げ出せない環境作りを行い、着火するまで体験させることで、「やればできる」という自信と達成感を味わえるようにした。



自分の考え伝える場の設定



ハードルの高い活動で負荷

## 5 事業の評価

- 参加者の声
  - ・活動をおおして話し合い、お互いを高めることができた。楽しくできて良かった。
  - ・別人のように積極的に活動していた。自信につながると思う。(引率教員)

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「明朗性」「視野判断」「積極性」「非依存」で大きな向上がみられたことから、交流をおおして失敗を恐れず前向きに物事をとらえ、先を見通して物事を判断する体験ができたと考える。
- 人間関係が希薄な参加者が多いので、コミュニケーション力を高めるプログラムは有効であった。今年度は少人数での実施のため、サポート体制が充実していたが、今後は体制の整備が課題。



### 企画のポイント

成功体験を積み重ね、自信を高めるプログラムの実施

# 道東チャレンジキャンプ 2021(冬)

## 1 事業のねらい

野外における自然体験や冒険体験等とおして、自分と向き合うとともに、集団生活を通じてよりよい人間関係について学び、自分の役割や存在を自覚することを目指す。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.2.9(水) 日帰り
- 対象 心に悩みを持つ小学5年生～中学3年生
- 人数 7名
- 場所 釧路湿原展望台周辺、ネイパル厚岸
- 協力 釧路市教育委員会

## 3 プログラム

	8	9	10	11	12	13	14	15	16
9日 (水)		受付	移動	釧路湿原 スノーシュー 体験	移動	昼食	焼き板 クラフト	移動	閉会

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■参加者の実態に配慮した体験活動

- ・スノーシュー体験では、地域ならではの自然を感じ、また、普段は体を動かす機会が少ない参加者にとって達成感が得られる活動になるよう、湿原展望コースを選定した。
- ・創作活動を取り入れ、自分自身と向き合う時間を創出した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リスクの低い屋外活動を中心に行った。



スノーシューで楽しく運動



仲間と協力してゴールに到着

## 5 事業の評価

### ■参加者の声

- ・スノーシューは大変だったけど最後まで歩ききることができてとても達成感があった。
- ・自然の中で仲間と大変有意義な時間を過ごすことができた。  
(引率教員)

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「適応行動」や「積極性」が向上したことから、体験活動と成功体験により、参加者たちが前向きな思考を持つことができたと考える。
- 「自分自身の気付き・発見」があまりなかったという参加者がいた。今後は地域の歴史や文化についてなど、自分たちの暮らす地域についてより深く知る内容のプログラムがあってもよいのではと感じた。



## 企画のポイント

自身の頑張りで達成感を味わうことができる、参加者の実態に配慮したプログラム